

# エキゾチック・ジャパン

## ～日本人が知らない、日本を扱った世界の児童書～

日本の児童書は、海外で翻訳・出版されていますが（この展示の後ろの棚にアジア諸国以外の国で出版された日本の絵本の翻訳があります。またアジア諸国で出版されたものは第一資料室に展示されています。ご覧ください）、翻訳ではなく、日本について書かれた児童書、日本を舞台にした児童書も海外では出版されています。そのなかにある日本の話は、日本人が知らないものや、筋が大幅に変えられているもの、絵と時代がまったく合っていないものなどがあります。また、明らかな間違いを含んでいるものもあります。外国の児童書に現れた日本像の一端を見てみましょう。

### 《日本民話、神話、古典を読んでみる》

瓜から生まれた一寸法師、花魁風鶴の恩返し、独身の竹取の翁、北斎風浦島太郎など・・

1) Belching Hill (げっぷ山) / retold by Morse Hamilton ; pictures by Forest Rogers. New York Greenwillow Books c1997. 当館請求記号 (Y17-B9621)

(出版国 アメリカ) ちりめん本で出されたハーンの「The old woman who lost her dumpling(団子をなくしたおばあさん)」の翻案と書かれています。ハーンの原文では、団子を落としたおばあさんが、それを追って穴に入り、鬼に捕まって鬼のために食事を作ることになっています。しかし、おばあさんは米を増やす魔法のしゃもじを持って逃げ、家に戻り、このしゃもじを使って米を出し、団子を作って売りお金持ちになります。本書でも大筋は変わりませんが、①おばあさんはハナコと言う名前の豚と暮らしている②鬼は日本の鬼と形状が違う③しゃもじでなくスプーンになっている、などの違いがあります。

2) The child in the bamboo grove (竹林の子ども) / by Rosemary Harris ; illustrated by Errol Le Cain. [London] Faber and Faber [1971] 当館請求記号 (Y19-88)

(出版国 イギリス) 筋は、竹取物語とほぼ同じですが、おばあさんは登場せず、おじいさんは独身のまま年をとってしまった「ヤシド」という名前の男で、一人で女の子を育てることになっています。人々の服装は平安時代というよりは江戸時代です。本書の挿絵画家・エロール・ル・カインが挿絵を描いた「まほうつかいのむすめ」(当館請求記号 Y18-7859)には、十二単衣そっくりの服装した娘が登場します。ただし、舞台は日本ではありません。

3) The crane wife (鶴妻) / retold by Odds Bodkin ; illustrated by Gennady Spirin. Orlando, Fla. Harcourt 2002. 当館請求記号 (Y17-B9594)

(出版国 アメリカ) 「鶴の恩返し」の類話。傷ついた鶴を助けた貧乏な帆船職人の「オサム」のもとに、ある日「ユキコ」と名乗る若い女が来て一緒に暮らすようになります。二人の生活のため「ユキコ」は、船の帆布を織ります。それは高く売れ、「オサム」はもう一枚織ることを求めます。登場人物の服装は、やや混乱気味。「ユキコ」は花魁のような髪型で、花魁のはく高下駄をはいています。日本人にとっては、素朴な日本民話の世界にひたれない本です。

4) The shining princess : and other Japanese legends (輝くお姫様、その他の日本の伝説) / Eric Quayle ; illustrated by Michael Foreman London Andersen Press 1989. 当館請求記号 (Y8-A5242)

(出版国 イギリス) 「竹取物語」「因幡の白兔」「浦島太郎」「桃太郎」などが収録されています。登場人物は、ただの爺さん、婆さんではなく、「ゲンゾウ」「フジワラ・サン」「サンギロ・サン」といった名前があります。しかし、この本の白眉はなんとといっても挿絵です。一人空中を浮遊して天に帰る花魁風のかぐや姫、江戸時代の町人そのものの大国主命、二刀流で百人切りを行わんばかりの身軽な桃太郎、鉢巻にふんどし一つで亀の背にまたがるいなせな浦島太郎、興奮度 100%の民話集です。

- 5) الحب أو السؤال : من التراث الشعبي الياباني / رسم فنانين من فلسطين (愛か質問か)  
 2004 رام الله : مؤسسة تامر للتعليم المجتمعي 当館請求記号 (Y17-AZ6125)  
 (出版国 パレスチナ) 漁師は子どもたちにいじめられている魚を助けます。すると家に美しい娘がたずねてきます。漁師の質問に、娘は「愛か質問か」という言葉を残して去って行きます。浦島太郎と雪女がもとになっているのでしょうか。
- 6) Japanese folk tales : the snow maiden and other stories (日本民話 : 雪女ほか) / retold by Hema Pande ; original illustrations by miss Katayun Saklat ; redone by Kanwar Deep. New Delhi Rupa 2003. 当館請求記号 (Y17-B5603)  
 (出版国 インド) 「雪女」「魔法の下駄」「三枚のお札」が収録されています。「雪女」登場する二人の男は父と子になっていて、古墳時代を思わせる服装をしています。「魔法の下駄」の主人公はケンタロウという現代的な名前です。登場人物のちょっと日本離れた服装が気になります。
- 7) Ourasima (ウラシマ) / dessine par Warja Lavater. Paris A. Maeght c1991. 当館請求記号 (Y17-B868)  
 (出版国 フランス) 登場人物、事項がすべて抽象化されており、絵を見ただけでは何が起っているのかわかりません。貧しい漁師のウラシマは、海の王の娘である輝く魚を助けたお礼にすべての願いがかなう魔法の箱をもらいます。村に帰ったウラシマは、「お金を出せるか?」と言われて出しますが、「お金を発行する権利は我々の皇帝だけにある」と反論されます。その間に決して開けてはいけない箱が開いてしまいました。
- 8) Jaapani muinasjutte (日本おとぎばなし) / tolkinud Ulle Udum ; pildid joonistanud Silvi Liiva. [Tallin] Kirjastus Eesti Raamat Ajakirjade Kirjastus c2006. 当館請求記号 (Y8-B7288)  
 (出版国 エストニア) 「不思議な太鼓」「浦島太郎」「二匹の蛙」などが収録されています。
- 9) Folk tales of Japan (日本民話) / retold by Sheila Hatherley ; illustrated by Linda Forss. London Evans 1993, c1991. 当館請求記号 (Y19-A100)  
 (出版国 イギリス) 「ぶんぶく茶釜」「やまたのおろち」「因幡の白兔」「浦島太郎」が収録されています。登場人物の服装はすべて江戸時代風です。カラフルなぶんぶく茶釜、助六を思わせるスサノオノミコト、若衆風の浦島に花魁風の乙姫とおぼしき「ミズノエ」姫、江戸趣味がただよってくる本です。
- 10) Los siete mejores cuentos japoneses (七つの日本昔ばなし) / textos, Andres Manosalva ; ilustraciones, Mui Neira ; textos en idioma original, Mauricio Martinez. Bogota Norma c2004. 当館請求記号 (Y17-B4823)  
 (出版国 コロンビア) 「かぐや姫」「三年寝たろう」「浦島太郎」などを収録。挿絵は現代の日本マンガの影響が強うかがえます。かぐや姫の5人の求婚者はいずれも個性豊かに描かれます。浦島太郎は漁師というより旅人の雰囲気です。
- 11) The oni demons who loved rice cakes : and other stories (煎餅の好きな鬼たち、ほか) / Hema Pande ; illustrated by Dipto Narayan Chattopadhyay. [Islamabad?] Gul Mohar 1997. 当館請求記号 (Y8-A3029)  
 (出版国 パキスタン?) 「煎餅の好きな鬼たち (団子をなくしたおばあさん)」「ちいさな星」「幸運茶釜 (ぶんぶく茶釜)」「仏さまへの新年の帽子 (笠地蔵)」「織姫」が収録されています。織姫の名前は「タナバタ」といいます。鬼の風貌は日本の鬼とは違っています。
- 12) IAPONSKIE narodnye skazki (日本民話) / [sostavlenie i illiustratsii K. Chelushkin ; perevod V. Markova]. Moskva Izd-vo "Znak" 1994. 当館請求記号 (Y8-A1274)  
 (出版国 ロシア) 表紙にある書名は、一見すると漢字に見えますが、実はロシア語をたて書きにしたものです。中国とも日本ともつかないおどろおどろしい挿絵が魅力的です。「蟻の殿様の錠」「三角の夢」「かちかち豆」(! \*間違いではありません)「ささやき橋」など 13 の話を収録しています。読んだことのない話が多く、新しい発見があります。

- 13) Iaponskie skazki (日本のお話) / pereskazal dlia detei Nison Khodza ; narisoval Grigorii Zlatogorov. Moskva Zakharov c2006. 当館請求記号 (Y17-B7871)  
 (出版国 ロシア) 日本昔話を集めてあります。絵は浮世絵風ですが、登場人物は、ケンゾ、マサオ、クラタ、マサユキなど現代風の名前を持っています。日本昔話のはずですが、貧しい漁師のケンゾが黄金の山に住む龍の小箱を苦勞して手に入れ、日本の人々を幸せにする「勝利者ケンゾ・シノブ」は日本で知る人は少ないのではないのでしょうか。竹取物語では、竹のなかから「こんにちは」という声が聞こえ、タケトリも「こんにちは」と挨拶します。「どうしてそんなに小さいの?」「月の世界ではみんなこんなに小さいのよ」などという会話が続きます。
- 14) Veer molodosti : iaponskie narodnye skazki (若返りの扇) / khudozhnik Mai Miturich-Khlebnikov. Moskva Fortuna EL 2005. 当館請求記号 (Y8-B8088)  
 (出版国 ロシア) 作者の記載がありませんが、13)に収録されている「勝利者ケンゾ」などが収録されています。挿絵は流麗な絵で知られているミトゥーリッチです。同じくミトゥーリッチが挿絵を描いているものに Iaponskie narodnye skazki (日本民話) / perevod i obrabotka N. Feldman ; pod obshchei redaktsiei S. Marshaka ; risunki M. Mituricha. Moskva Detskaia lit-ra 1983. (当館請求記号 Y17-B1830) があります。収録している話は同じで、絵も同じ構図を使っていますが、細部が異なっています。ミトゥーリッチに興味のある方は必見です。
- 15) Iaponskie skazki (日本のお話) / [perevod s iaponskogo Very Markovoi] ; khudozhnik Kirill Chelushkin. Moskva Drofa 2002 当館請求記号 (Y8-B1310)  
 (出版国 ロシア) 「かたつむり息子 (田螺息子?)」「鶯の家」「聞き耳ずきん」「狐妻」などが収録されていますが、翻訳の題名もさることながら絵が非常にエキゾチックなため、もとのお話を思い浮かべることが難しくなっています。
- 16) Graelingen og trylleviften (穴熊と魔法の団扇) / af Tony Johnston ; og illustreret af Tomie dePaola ; pa dansk ved Peter Gotthardt. Copenhagen Carlsen c1991. 当館請求記号 (Y19-A42)  
 (出版国 デンマーク) アメリカで1990年に出版された“The Badger and the Magic Fan”の訳です。3人の天狗の子が鼻の伸びる魔法の団扇で遊んでいるのを見た穴熊は女の子に化けて団扇を手に入れます。その団扇でお姫様の鼻を長くして、それを治療するなどしますが、うっかりご馳走を食べて眠り込んだ穴熊は天狗の子ども達に団扇を取り戻され、鼻を長くされて天に行ってしまう。衣装にやや難はありますが、楽しく読めます。
- 17) Lille Fingerbol (一寸法師) / et japansk eventyr genfovtalt af Monica Hughes ; illustreret af Brenda Clark ; pa dansk ved Hanne Olsen. Copenhagen Carlsen c1992. 当館請求記号 (Y19-A43)  
 (出版国 デンマーク) 1989年にカナダで出版された“Little Fingerling”の訳です。日本の話では両親は老夫婦ですが、ここでは老夫婦ではありません。また一寸法師は、直接、殿様の屋敷に仕えるのではなく、まず小間物屋に勤めてから屋敷に転職します。一寸法師は室町時代に成立したと言われていますが、本書の舞台は江戸時代です。
- 18) Issumbosi : iaponskaia narodnaia skazka (一寸法師 : 日本民話) / pereskazala s iaponskogo N. Lagutina ; risunki E. Antimonovoi. Moskva "Detskaia lit-ra" 当館請求記号 (Y17-B698)  
 (出版国 ロシア) 子どものいないおばあさんとおじいさんは太陽に子どもを授けてくれるように頼みます。一寸法師と蟻の描かれている場面はチェコの絵本を思わせます。時代は江戸時代と思われま。浮世絵を思わせる鬼の顔がなんともユニークです。
- 19) Issounboshi et autres contes du Japon (一寸法師と日本の他の話) / Pascal Fauliot ; illustrations de Joelle Jolivet. Paris Syros jeunesse c1999. 当館請求記号 (Y8-A4539)  
 (出版国 フランス) 「一寸法師」「小僧と山姥」「コウロギの歌」が収録されています。一寸法師は瓜から生まれます。読み聞かせ用と思われまますが、声の大きさを文字の大きさでわかるようにしてあり、擬音(日本の擬音を使用)が赤字で印刷してあります。
- 20) Ulybki povsiudu (微笑みはあらゆるところに) / napisal po motivam iaponskogo folkloru Efim IUdin ; [risunki B. Vlasova]. Leningrad "Detskaia lit-ra" 1977. 当館請求記号 (Y17-B2248)  
 (出版国 ロシア) 日本民話をモチーフにした子ども向けの詩集です。擬音を効果的に使っています。

21) Taro and his grandmother : a Japanese folktale (太郎とおばあさん : 日本民話) / retold by Chia Hearn Chek ; illustrations by Kwan Shan Mei. Toronto Dominie 1976 当館請求記号 (Y17-B4960)  
(出版国 カナダ) 年寄りを捨てると命じた殿様が、村人のかくまっていた年寄りの知恵によって救われるというアジアに広く親しまれている民話のもとになっています。ここでは殿様ではなくて、村の長になっています。主人公は「タロウ」です。村の長が三人官女風のお付きを従えていたり、農民の「タロウ」が袴をはいた若様のような服装で描かれているのが気になります。デンマーク語版もあります。(当館請求記号 Y19-242 Taros bedstemoder og de tre gader : et eventyr fra Japan)

22) Glupyi Etaro : iaponskaia narodnaia skazka (愚かな与太郎 : 日本民話) / risoval L. Sychev. Moskva Izd-vo "Iskusstvo i moda" 1992. 当館請求記号 (Y19-A116)  
(出版国 ロシア) 民話というより、落語のひとつと思われまゝ。与太郎は愚かです。「魚を見ていて」と言われて、見ていただけの与太郎は猫に魚を取られてしまいます。「そんなときは、叫ぶのよ」と言われた与太郎はキャベツを食べる虫に叫んでみましたが食べられてしまいます。お母さんはいろいろ教えますが、状況を考えないで与太郎は次々に失敗を重ねます。「愚か者に教えるのは、時間の無駄だけ」という悲しい結論になります。挿絵画家はロシア人ですが、服装などをよく調べて描いています。

23) Tuk-tuk-tuk, otkroi dver! : iaponskaia narodnaia skazka (とん、とん、とん、ドアを開けろ : 日本民話) / pereskazala Vera Markova ; risunki M. Mituricha. Moskva "Detskaia lit-ra" 1974. 当館請求記号 (Y17-B2079)

(出版国 ロシア) 「瓜子姫と天邪鬼」のお話。子どもも孫もないおじいさんとおばあさんのところに、太陽のように輝く金の瓜が流れてきます。そこから生まれた女の子の名前はなぜか「瓜子姫子」になっています。ミトゥーリッチの挿絵です。

24) La mythologie japonaise (日本神話) / Claude Helft ; illustrations de Karine Le Pabic. Arles Actes Sud c2003. 当館請求記号 (Y8-B6535)

(出版国 フランス) 表紙は着物を着た男女が銚子のようなものを持った絵です。一見、大正時代の話のように見えますが、これが古事記に出てくる伊弉那岐命と伊弉那美命なのです。大国主命は山のような荷物を運んでいます。古事記の登場人物たちは、いずれも大正時代を思わせる着物姿で活躍します。

25) The girl who loved caterpillars : a twelfth-century tale from Japan (芋虫の好きな女の子 : 12世紀の日本の話) / adapted by Jean Merrill ; illustrated by Floyd Cooper. New York Philomel Books c1992. 当館請求記号 (Y17-B9582)

(出版国 アメリカ) 「虫愛する姫君」が元の話のようですが、女の子の名前は「イズミ」ときわめて現代風です。絵を見る限りでは、時代は江戸時代、イズミのために虫をさがす子ども達は中国人風、イズミに歌を贈る中將らしき若い男はまったくの町人風のいでたちという大混乱絵本です。表紙の「イズミ」の着物姿、髪型を見てなんとかしたいと思うのは、日本文化の中に育った人だけでしょうか。

## 《創作: 日本を舞台にしたおはなし》

皇女の名前は「洪味」、猫の名前は「侘び寂び」、金太郎夫妻と大岡署長、夫婦で暮らしていた鳳凰・・・。

26) Three samurai cats : a story from Japan (三匹のサムライ猫 : 日本のお話) / retold by Eric A. Kimmel ; illustrated by Mordicai Gerstein. New York Holiday House c2003. 当館請求記号 (Y17-B2835)

(出版国 アメリカ) 鼠にのっとられた城をもとに戻すのに、サムライ猫はいずれも失敗するが、猫老師が知恵を働かせて、無事に取り戻すというお話。"Swordsman and cat(サムライと猫)"を基にしていると記載あり。

27) Erika-san (エリカさん) / Allen Say. Boston Houghton Mifflin Books for Children 2009. 当館請求記号 (Y2-B548)

(出版国 アメリカ) アメリカ生まれの「エリカ」さんが、日本に憧れてちいさな島の学校に赴任し、日本人の青年と結婚して日本で暮らすようになるまでの話を叙情的な画で描いています。著者のアレン・セイは、日系人の母と、韓国人の父のもとに生まれ、十六歳で渡米しました。1989年 "Boy of the Three-Year Nap (三年寝太郎)" で、コールデコット賞オナーに選ばれています。日系人や日本をテーマにした作品を多く書いています。

28) *Ce qui arriva a monsieur et madame Kintaro : un conte du Japon* (到着したのは金太郎夫妻だった：日本の話) / raconte Muriel Bloch ; illustre par Aurelia Fronty. [Paris] Gallimard jeunesse musique c2005. 当館請求記号 (YU81-B218)

(出版国 フランス) 金太郎夫妻は大阪でスリをして暮らしていました。今度、大阪に警察長官・オオオカ氏が赴任してくることになり、許可を得てスリを続けるか、大阪を去るかの決断を迫られます。結局、金太郎夫妻は大阪を去って海辺の村で生活することを選びます。夫妻のもとに見知らぬ客が訪ねてきて一緒に食事などをします。付録として、箏曲「八段」「黎明」などを収録したCDが付いています。CDに入っている格調高い楽曲と、本書の内容が矛盾しないのがフランスなのではないでしょうか。

29) *Kinita la japonesa* (クニタ、日本の少女) [Lima?] Impr. en Corporacion Grafica Navarrete [199-?] 当館請求記号 (Y17-A4700)

(出版国 ペルー) 日本の少女のクニタはある日、漁師に海の響きが聞こえる貝をもらいます。しかし、お父さんに見つかって、貝を捨てられてしまいます。悲しむクニタの窓辺に吟遊詩人が現れて、無事、貝を海の底から見つけてくれます。

30) *Gaspard et Lisa au Japon* (日本でのガスパールとリサ) / Anne Gutman ; [illustrations de] Georg Hallensleben. France Hachette jeunesse c2006. 当館請求記号 (Y17-B8511)

(出版国 フランス) 「リサとガスパール」シリーズの一冊。二人はフクシマ氏に案内で、日本を探求します。ウオッシュレットに驚き、寿司に舌鼓をうち、金閣寺とおぼしき寺を訪ねます。

31) *Simon en Japon* (日本でのシモン) / dibujos, Enrique Cerdan ; ilustraciones, Francisco Mascaros; textos, Estela Ortells. Valencia A. Ortells [1998?] 当館請求記号 (Y17-A4812)

(出版国 スペイン) シモンがあちこちの国を訪れるシリーズの中の日本編です。すすめられて富士山に行ったシモンは富士山の噴火に慌てます。

32) *Den Forflojne drage : en historie fra Japan* (無分別な凧：日本からのお話) / udviklet af the Walt Disney Company ; i samarbejde med Nancy Hall Inc. [Denmark?] Wangels Forlag 1992. 当館請求記号 (Y19-A69)

(出版国 デンマーク) ミッキーマウスとグーフィーが日本を訪ねる話。二人は子ども達がやっているように凧を作ってあげてみることにします。日本のこともいろいろ知っていますが、鯉幟が凧の類似品で、お雛様が指人形と同じと理解してしまっているようで不安です。

33) *Shibumi and the kitemaker* (渋味と凧職人) / story and pictures by Mercer Mayer. New York Marshall Cavendish 2003. 当館請求記号 (Y17-B9583)

(出版国 アメリカ) 天皇の一人娘の「渋味」は、高い塀に囲まれた宮殿内で育ちます。しかし、ある日、宮殿を囲む塀に昇って外の世界の貧しさを見た渋味は、外に出て世界を変えようと思えます。そこで、忠実な凧職人に自分が外に出られるような凧を作ってもらい外へ出て行きます。「渋味」という名前、渋味の服装、渋味の行動---アメリカ人でなくては作れなかった、日本を舞台にした絵本です。巻末に凧の作り方あり。

34) *The fool and the Phoenix : a tale of old Japan* (愚か者と鳳凰：古い日本の話) / Deborah Nourse Lattimore. [New York] HarperCollins c1997 当館請求記号 (Y17-A1836)

(出版国 アメリカ) 主人公は唾の鳥猟師「ヒデオ」、将軍家から財宝を盗んだ盗賊なのに村の長になっている「ノブ」、そしてノブに夫を殺された鳳凰が中国風の風景の中で、個性的な衣装と髪型で活躍します。大名は衣冠束帯をつけ、将軍は鎧兜の臨戦態勢です。巻末の日本文化の説明も読めば謎が深まります。鳳凰がつがい暮らしているという事実も、夫を失った鳳凰の妻が主人公のヒデオとしばらく暮らすのも日本人にとっては新鮮です。

35) *The fox maiden* (狐少女) / by Elsa Marston ; illustrated by Tatsuro Kiuchi. New York, N.Y. Simon & Schuster Books for Young Readers c1996. 当館請求記号 (Y18-B425)

(出版国 アメリカ) 森に住む若い少女狐が人間の世界で過ごし、また森に戻る話です。少女狐は葛の葉狐のように、人間世界の男に恋をして、人間になりたいと思ったのではなく、人間の暮らしはどんなものかしらと思って人間になります。

36) Wabi Sabi (侘び寂び) / Mark Reibstein ; art by Ed Young. New York Little, Brown and Co. 2008. 当館請求記号 (Y17-B10192)

(出版国 アメリカ) 書名の「侘び寂び」は、猫の名前です。「侘び寂び」は、アラブ諸国と思しき外国からのお客さんに自らの名前の「侘び寂び」とは何かと聞かれて答えることができません。そこで「侘び寂び」の意味をたずねるちいさな旅に出ます。

37) Kazunomiya : prisoner of heaven (和宮 : 雲上の囚われ人) / by Kathryn Lasky. New York Scholastic 2004. 当館請求記号 (Y8-B7282)

(出版国 アメリカ) 各国の王女の創作日記シリーズの一冊。日本は皇女・和宮の日記の体裁をとっています。表紙の写真が皇女と思う日本人はいないでしょう。

38) Yuki and the one thousand carriers (ユキと一千人の運び人) / Gloria Whelan ; illustrated by Yan Nascimbene. Chelsea, Mich. Sleeping Bear Press c2008. 当館請求記号 (Y17-B10099)

(出版国 アメリカ) 現代の女の子のように見えますが、実は江戸時代のお姫様です。名前は「ユキ」父親が江戸の将軍に召されたために一緒に江戸まで旅をすることになります。ユキは犬のキタを連れ、道中、俳句を読みながら無事、江戸に着きます。

39) Sky sweeper / Phillis Gershtator ; pictures by Holly Meade. New York Farrar, Straus and Giroux 2007. 当館請求記号 (Y17-B8266)

(出版国 アメリカ) 主人公はお寺の庭師「タケボキ」です。この「タケボキ」が、日本語の「竹箒」から来ているのかは判然としませんが、主人公は竹箒を手にした姿で描かれています。「タケボキ」は若い頃からお寺の庭の手入れをし、年をとって死にます。死後、「タケボキ」は永遠の世界でやはり同じ仕事をします。

40) One leaf rides the wind : counting in a Japanese garden / by Celeste Davidson Mannis ; pictures by Susan Kathleen Hartung. New York Viking c2002. 当館請求記号 (Y17-B9570)

(出版国 アメリカ) 日本の庭をテーマにした数字の数え方の本です。狛犬二匹がいるところから神社の庭とも思えますが、五重塔が立っているのです。庭に盆栽、沢山の燈籠・・・日本文化の中で育った者にとっては違和感がぬぐえません。

41) Jiro's pearl (次郎の真珠) / Daniel Powers. London Walker Books 1997.

当館請求記号 (Y17-A1296)

(出版国 イギリス) 主人公の「ジロウ」は病気の祖母のために薬をもらいに行きますが、途中で道草をくってしまいます。「薬剤師さん」(薬屋ではない)は「ジロウ」にどうすればいいか教えます。「ジロウ」は心を入れ替えてがんばります。蛙が花魁ふうの美女に変わったり、最後にたんすから出てくる宝物のなかの酒に「月桂冠」とラベルがついているのが泣かせます。

42) Kinko i Khirosi : malenkie iapontsy (キンコとヒロシ : 日本の子ども) / Lev Rubinshtein ; risunki V. Lazarevskoi. Moskva Izd-vo "Detskii mir" 1962. 当館請求記号 (Y17-B334)

(出版国 ロシア) 「キンコとヒロシ」の漢字は「欣子と宏」と書くのでしょうか。二人は京都にすむ小学生です。二人の日常が描かれます。日本人にとっても懐かしい昭和30年代の日本です。

43) Little Oh (小さなオー) / Laura Krauss Melmed ; illustrated by Jim LaMarche. New York Lothrop, Lee & Shepard Books/Morrow c1997. 当館請求記号 (Y17-B9572)

(出版国 アメリカ) 「オー」は、紙人形です。紙人形が動いたので、「オー」と驚いたところ、人形は「それが私の名前なのね」と言って、「オー」と名乗ります。「オー」は作ってくれた婦人と仲良く暮らしていますが、ふとしたことから旅に出て、また婦人のもとに戻ります。時代は大正か、昭和前期でしょうか。

## 《ますますわからなくなる日本——日本を紹介する児童書》

まず、著者自身が日本を知らないと読者には伝えられないのでは？

44) A family from Japan (日本の家族) / Simon Scoones. Hove, East Sussex Wayland 1997.

当館請求記号 (Y2-A244)

(出版国 イギリス)「世界の家族」シリーズの中の1冊です。衝撃的なのは表紙の写真です。「浮田家は所蔵しているものをすべて外においてくれたのでこの写真が撮れました」とあります。車庫の前の道にまで家財道具を並べ、犬と一緒に家族がコタツに入っている写真はここで生活しているのかと誤解を招きそうですが、家庭の持ち物を展示するのが目的のようです。モノあまりのニッポンの姿でしょうか。それにしても、年収300万時代が懸念される日本で、浮田家はすでにそれを実現し(年収26,824ドル)、その中でたくましく生きています。デンマーク語版もあります(当館請求記号 Y2-A120)。

45) A family in Japan (日本の家族) / Peter Otto Jacobsen, Preben Sejer Kristensen. English-language ed. Hove, East Sussex Wayland 1984.

当館請求記号 (Y19-A148)

(出版国 イギリス)「世界の家族」シリーズの中の1冊です。本書の主人公は田中氏です。田中氏は三菱自動車の工場に勤務し、社宅に住み、こざっぱりとした暮らしを営んでいます。上記(Y2-A244)と同じ出版社からだされており、以前のシリーズと思われませんが、十年ほどの間に起きた田中家と浮田家の違いに驚きます。

46) Kyoko e la nascita del Giappone (キョウコと日本の誕生) / di Laura Canestrari ; illustrazioni di Laura Di Francesco. Roma Sinnos editrice c2007.

当館請求記号 (Y17-B9476)

(出版国 イタリア)「日本の誕生」は古事記によります。キョウコとマサオが、日本の文化や習慣を知る絵本です。きれいな本ですが、日本についてほとんど知らない人によって書かれたのではと思われる本でもあります。

47) Japonia jaka jest(日本事情) / Jadwiga Jasny ; ilustrowała Magdalena Jasny. Warszawa

Wydawn. Trio c2006.

当館請求記号 (Y2-B438)

(出版国 ポーランド)「島」「車」「畳」などの項目のもとに、日本を紹介しています。画の雰囲気から古い本のような感じがしますが、出版は2006年です。子どもの読んでいるのが高橋留美子風の絵のマンガ、日本人(?)の読んでいる新聞がおみくじだったりします。

48) Japan (日本) / Andrew Haslam & Clare Doran ; consultant, Heidi Potter. London Two-Can Pub. in association with Franklin Watts 1995.

当館請求記号 (Y2-A51)

(出版国 イギリス)各国の歴史、文化を理解するための“Make it work!”シリーズの中の1冊。小学生の子どもが実際に日本のものを作ったり、「その当時の服装」を試みるのですが、着物はドレスのすそは同じと考えているふしがあります。読めば読むほど著者自身が日本文化についての知識があまりないことがうかがえます。デンマーク語版もあります(Y2-A289)。

49) Takao, yo soy del Japon (隆夫、僕は日本生まれです) / [autora y fotografías, Anna Gasol Trullols ; ilustraciones, Domenech]. Barcelona Galera 1997.

当館請求記号 (Y2-A358)

(出版国 スペイン)佐藤隆夫くんという小学生がスペインに住む同じく小学生に手紙で日本について紹介する形で、日本の社会、文化、歴史、毎日の暮らしを紹介しています。世界の国々を紹介するシリーズの中の1冊です。

50) Japan : [its festivals and traditions] (日本 : 祭りと伝統) / Susie Dawson. New York F. Watts 1998, c1997.

当館請求記号 (Y2-A63)

(出版国 アメリカ)各国の祭や伝統を紹介するシリーズの中の1冊です。著者は日本についての知識が不足しています。挨拶をする日本婦人の姿、正月の門松につけられた「招福飾り」、節分の面、鯉幟の写真に、七五三のお祝い「3歳と5歳の男の子」に、などに知識不足がうかがえます。

51) Japan/Henry Pluckrose. New York, N.Y. Franklin Watts 1998. 当館請求記号 (Y2- Y2-A122)

(出版国 アメリカ)谷中の「吉田屋本店」の写真が、歴史的建造物ではなく、普通の建物のように出ています。日本人が食べる米の写真はインディカ米、家で履くという下駄には旅館のものとおぼしき印が押されています。誤解を招かないでしょうか？

52) Japan (日本) / Nick Bornoff ; [all photographs except the cover are by Jim Holmes]. East Sussex, England Wayland Publishers 1999, c1996. 当館請求記号 (Y2-A357)

(出版国 イギリス) イチローの出身国・日本を思わせる野球少年が表紙です。著者は日本在住 11 年のベテラン記者で、日本人が知らない日本も紹介されています。

53) Japan ai : a tall girl's adventures in Japan (日本愛 : 背の高い女の子の日本での冒険) / by Aimee Major Steinberger. [Agoura Hills, Calif.] Go! Comi c2007. 当館請求記号 (Y2-B501)

(出版国 アメリカ) アニメ作家の日本旅行記。京都、宝塚、東京、伊豆(温泉に入るため)での訪問先がアニメとともにつづられています。巻末に用語説明、参考文献、店名リストあり。

54) Little pictures of Japan / edited by Olive Beaupre Miller ; pictures by Katharine Sturges. Chicago Book House for Children c1925. 当館請求記号 (Y19-A149)

(出版国 アメリカ) 俳句、和歌、伝説、日常行事などを大正ロマン調の美しい絵とともに紹介しています。古い日本の美しさが堪能できる本です。大仏の顔が西欧人そのものとか、天女の羽衣が文字通り羽でできたドレスであるのもご愛嬌です。

(参考情報)

古いものなのでここに展示することができませんでしたが、当館では下記の資料も所蔵しています。ご興味がありましたらご請求の上、ご覧ください。

\* Legendes japonaises : l'eau--la terre--le ciel, le feu (日本の伝説 : 水、土、空、火) / recueillies et illustrees par T. Foujita ; preface de Claude Farrere. Paris Editions de l'Abeille d'or du monde c1922. 当館請求記号 (Y17-Y1)

(出版国 フランス) 水、土、空、火のジャンル毎に、関連した民話が収められています。水は、「玉取」「道成寺」「浦島」の三話です。藤田嗣治が文と話を書き、ゴングール賞を受けた当時に人気作家クロード・ファーレルが前書きを書いています。

\* Japonska pohadka o dvou dedcich (二人のおじいさんについての日本民話) / Jan Havlasa ; kreslil Lad Saloun. V Praze B. Koci [1919?] 当館請求記号 (Y8-B877)

(出版国 チェコ) ハヴァラサは 1912 年に来日して一年間滞在しました。本書はプラハで出版されましたが、装丁は和とじになっておりカバーには「福」「壽」の文字がデザインされています。